

1 モデルプログラム NO.6 塀もまちの景観の一部

2 単 元 名 ピースプロジェクト！～品濃小を明るく彩る～

3 単 元 目 標 学校に来る人に明るい気持ちになってもらえるように、関係機関や地域、在校生など多数の意見を集約したり整理したりする活動を通して、デザインを決めて実際に彩ることで、地域や学校に愛着をもつことができる。

4 単 元 計 画

小単元	学習内容	① 課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現
【I】 今年の総合、何する？	これまでの学習をふり返り、今年の活動について意見を出し合う 「品濃小に来る人を明るい気持ちにするように仕上げる」ことを共有する	① 今年の総合でできそうなことを見つける ② 見つけたものを共有する ③ PMIで整理する ④ やらなければいけないことを見つける
【II】☆ 場所、方法を考えよう！	たくさんの人に見てもらえるところを探し、その優先順位や見易さ、伝わりやすさなどのポイントを決めて比較する。  <b>外階段を新しくしたい！</b>	① 比べる観点を決める ② 条件に合う場所を見つけ、照らし合わせて比べる ③ 自分たちの思いが実現する条件を満たすものを決める。 ④ 関係の方々に許可をもらう
【III】 どんな方法で外階段を新しくしようかな？	「階段アート」や「タイル」などのワードから外階段を新しくすることにいちばん合う方法について調べて、そのよさを比較して考える。	② 様々な方法について情報収集をする ③ 全体で共有し、+、-の観点を比べて考える ④ よさを生かした方法にブラッシュアップする ① 材料の調達方法や作成方法を調べる ① 地域に陶芸教室があるから話を聞きたい
【IV】 何を描いたら「明るくなる」かな？	どんなものを描くと明るくなるのかを話し合い、デザインの案を考える。 デザインの基礎や、大切にすることをデザイナーさんに教えてもらい、その方法を生かしてデザインの案を改案する。	① デザインを考える ② これでいいか、いろいろな人にアンケートを取る ③ もっと良くする方法はないか考える ④ デザイナーさんに意見をもらう ① デザインを改案する ② アンケートを取る ① 決まったアイデアを周知する取り組み ③ 周知する
【V】 品濃小の玄関を彩ろう！！	役割分担をして、実際に彩る活動。スムーズに作業が進むように打ち合わせや困ることがないようにする。 完成後のお披露目会の仕方についても考える。	① 実際に描くために必要なことは何か考える ② 役割りを決めておくとスムーズなことに気付く ③ 「みんなが」関わられるように計画する ④ 描く活動 ① お披露目会について考える ② 人を集めなくてもできる方法をいくつか考える ③ どの方法が合っているか比較する ④ 決めた方法に向けて活動する。

②事業実施報告書詳細

学校名

時数	場所	概要	活動記録	対象者の反応
4 時間	学校内外の様子	○慣れ親しんだ学校の「ここがもっと明るくなれば、気持ちも明るくなる」ポイントを探す。		子どもたち目線で学校の課題を見つけることができた。場所の必要性やどんな人が見るかなど、相手意識のある意見交換ができた
2 0 時間	学校敷地内の外階段	○「見た人の気持ちが明るくなる」ことを目指したデザインづくりをする。		学校には子ども以外にもいろんな人が来校することに着目し、多くの人の目に触れることから、3つの要素に絞ってデザインを作成した。
4 0 時間	学校敷地内の外階段	○陶芸家の先生を招き、タイルに色付けをしていく。		古いタイルをはがし、面を整えて、タイル専用の絵の具で色付けをした。本物にふれることで意欲も作業効率も上がっていった。
1 2 時間	学校敷地内の外階段	○完成した事を広める活動。お披露目の計画や集客するために地域のラジオに出演した。		完成した場所を認知してもらうための計画を立てた。子どものアイデアと行動力が会を成立させた。ラジオでも協力して要点をまとめて発信することができた。

(1) 実施にあたり工夫した点

◦ たゆみかのためになる学習を意識させたこと。  
高学年として、自分の学習がたゆみかのために...と相手意識をもたせることで、身の回りの問題は息点や、困り感に目がいくようになった。

(2) 実施にあたり苦労した点

◦ 「まちとかがわる」点  
これまで、コロナのこともあり、まちとの関わりがうまくまま成長してきたので、まちの景観や、人に関心をもてなっていたところ。

(3) 児童の反応

景観への関心のなからた児童が、まずそこに興味をもって、物事を考えようになった。その中で、今年の系念合が軌道にのったことも、さらに関心を強めることになったと感じている。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

総合の取組については年度当初から考え続けていたが、「コレだ」という決断に欠けていた。本事業のパンフレットを見て、子どもたちに話をもちかけたところ、「やっせたい!」と意欲を示してくれた。そこで自分自身も林の研究を通じて、景観について意識するようになった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

單元構想の[III]までは、子どもたちのがんばり次第ではあるが、流れはできていると思う。しかし、[IV]からは、どうしても費用面の課題をクリアしなければならぬ。子どもたちと一緒に学習する「海」で周囲の理解を得ようようにしたい。